

植物画——解剖図の役割

田地川和子・貴島せい子・肥田陽子 (GREEN GRASS)

植物画とは

植物画とは、本来は科学的研究を目的として描かれた絵をさします。植物を細密で正確に描きながら、芸術性をも併せもった絵画といえます。

ヨーロッパで始まったこれらの絵は、薬学等の資料となる図譜として描かれ、大航海時代（15世紀末～16世紀前半）には珍しい植物を記録する手段として、また17, 18世紀には王侯貴族の楽しみとして人々の心を捉えてきました。

日本では、今日的な意味での植物画が描かれるようになったのは、江戸時代に入ってからです。ヨーロッパと同様に、写実的な植物画は本草学（薬物を研究する学問）の必要から描かれました。明治時代になって植物の研究が盛んになり、それと共に植物画も多く描かれるようになりました。

今、植物画は芸術性をもった新しい絵画の分野として定着しつつあります。



ソラマメ (*Vicia faba* L.)
田地川和子



ニンニク (*Allium sativum* L.)
貴島せい子



イネ (*Oryza sativa* L.)
肥田陽子

解剖図について

植物画は植物学的に正確に描く絵画です。そのために肉眼では見えにくい微細な特徴や構造を解りやすく描くことも必要になります。花や種子の内部、葉の毛の生え具合など植物の特徴を目に見えるように分解・拡大して画面に描き込んだものが「解剖図」です。植物画を構成する大きな要素といえます。

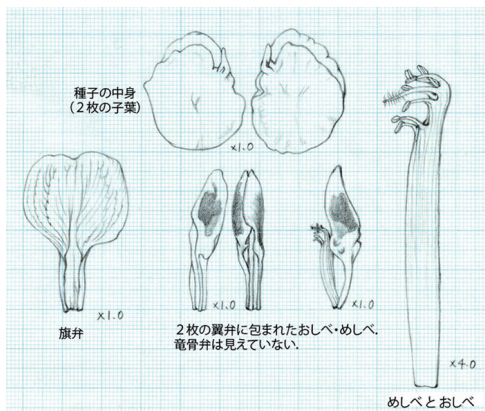
解剖図の描き方

解剖図制作には、まず描く植物の知識が必要になります。描き始める前に植物図鑑などで下調べをしたうえで、

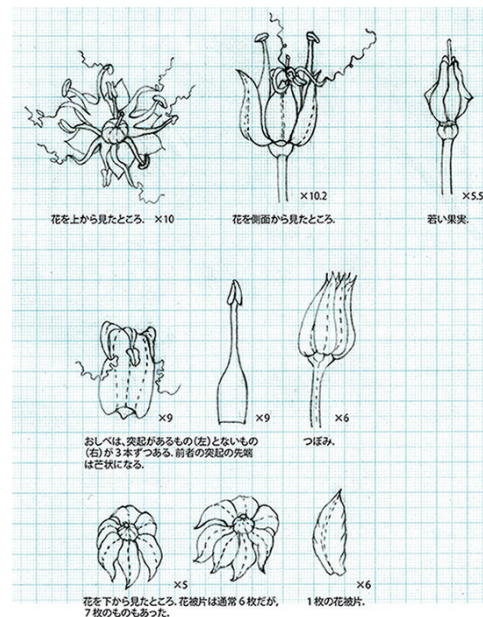
- 1, 描くことが必要な部分をパーツごとに切って、解剖していきます。
- 2, 切ったパーツを方眼紙上に載せると大きさが正確に解ります。
- 3, 拡大したい大きさ(倍率)に方眼紙に縦横の四角を取ります。
- 4, その四角の中に、方眼紙上のパーツをルーペや顕微鏡で見ながら写しとります。
- 5, 同様に、必要なパーツの数だけ解剖図を作っておきます。
- 6, 描き終えた植物画に、最後に各パーツの解剖図を描き込みます。

解剖図の役割

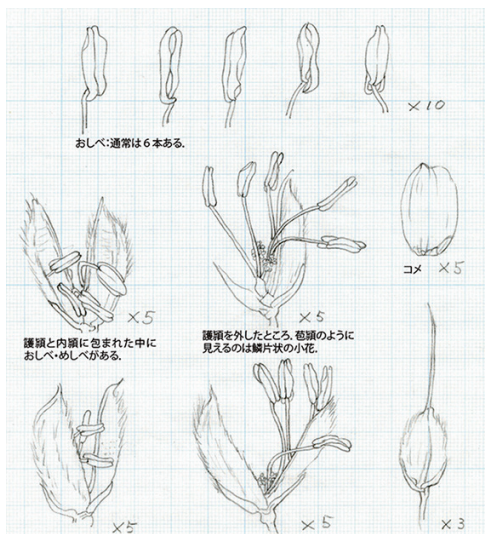
かつて植物を記録する手段としては、描く以外方法がありませんでした。ところが、科学技術の進んだ現代、より正確な情報を記録する方法はたくさんあります。ただ、人の目と手でわかりやすく微細に描かれる植物画の「解剖図」は、植物への理解をより深めるもので、科学技術による情報には代えられない働きと魅力とがあると言えるでしょう。



ソラマメの花



ニンニクの花



イネの花